

# 第3章 子育て・教育分野

## 政策体系

### 1 子育ての充実

- (1) 子育て支援体制の推進
- (2) 子育て支援環境の充実



### 2 学校教育の充実

- (1) 教育環境の充実
- (2) 教育内容の充実
- (3) 特色ある教育の実施
- (4) 家庭・地域の教育力の向上



### 3 生涯教育の充実

- (1) 生涯学習の充実
- (2) 歴史文化の保存・活用
- (3) 芸術文化・スポーツの振興



※政策体系表（基本事業を含む）は資料編（87 ページ）を参照

# 1 子育ての充実

## (1) 子育て支援体制の推進

### 施策の現況と課題

- ・子育ての不安や悩みを相談する場所、子育てしている人の孤立化を防止する場所として、子育て支援センターの役割は重要性を増しています。
- ・給食費の一部助成、就学援助などにより、子育て世帯の経済的負担の軽減を図っています。
- ・子どもの最も身近な居場所における子どもの福祉に関する支援等に係る業務を行うことが、市の役割・責務とされていることを踏まえ、子どもとその家族及び妊産婦等を対象に、実態把握・情報提供・相談、調査、指導、関係機関との連絡調整その他の支援を行うための拠点整備が必要となっています。

### 前期基本計画の検証

- ・令和元年度に下郷児童館に子育て支援センターを移設し、市内の子育て支援体制の充実を進めました。
- ・ファミリー・サポート・センターの会員数は、目標を上回っています。
- ・子どもの貧困対策として、令和元（2019）年度に子どもの居場所づくり事業推進交付金制度を創設しました。

### 前期基本計画における達成指標

#### ○ 子育て支援センター設置数

(子育て支援センターの設置箇所数)

H26実績 5か所 ⇒ R1実績 7か所 ⇒ (R2目標 6か所)

#### ○ ファミリー・サポート・センター会員数

(ファミリー・サポート・センターの会員数)

H26実績 267人 ⇒ R1実績 324人 ⇒ (R2目標 300人)

### 施策の方向性

- ・子育て支援センターなどの地域子育て支援拠点で相談を受けることにより、前向きで喜びが感じられる子育てができるよう「利用者支援事業」など、支援体制を充実させていくほか、何らかの理由で家庭から出られない親子が必要とする支援に結び付けられるように保健センターに設置された「子育て世代包括支援センター」など、他の機関と連携しながら支援体制づくりを進めます。
- ・交流・相談ができる場所を知らず孤立してしまう人を作らないよう、子育て支援センターの周知の強化や利用者の拡大を図ります。
- ・すべての子どもが貧困や虐待から守られ、将来の希望をもって大人になれる社会を築くため、「子どもの居場所（こども食堂）」を小学校区に1か所程度に拡げていくことを目標に、「子どものちちぶ版地域包括ケアシステム」の構築及び子どもとその

家庭・妊産婦等を対象に、実態把握、相談全般、通所・在宅支援、訪問等による継続的なソーシャルワーク業務を行う拠点として、「子ども家庭総合支援拠点」の整備を進めます。

### 後期基本計画における達成指標

○ **子育て支援センターの延べ利用組数**

(子育て支援センターの年間延べ利用組数)

令和元(2019)年度 実績 10,018 組 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 10,100 組

○ **ファミリー・サポート・センター延べ利用回数**

(ファミリー・サポート・センターの年間延べ利用回数)

令和元(2019)年度 実績 549 回 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 600 回

## (2) 子育て支援環境の充実

### 施策の現況と課題

- ・市内の私立幼稚園のほとんどが令和元（2019）年度中までに認定こども園に移行し、乳児・幼児の支援体制整備が進んでいます。
- ・例年、4月1日時点での待機児童ゼロを継続していますが、年度途中には0歳児から2歳児を中心に若干の待機児童が発生しています。
- ・未就学児の人口減少が加速している状況に鑑み、今後、老朽化施設の廃止を中心として取り組んできた公立保育所等の再編から、施設や運用体制の機能向上を目指して検討していく必要があります。
- ・放課後児童対策として、学童保育室とふれあい学校の一体化が課題になっています。

### 前期基本計画の検証

- ・家庭における保育が一時的に困難になったときに保育所等で一時的に必要な保育を行う事業として、一時保育事業を実施していますが、目標には達していません。
- ・吉田幼稚園と吉田保育所が認定こども園に移行し、令和2（2020）年4月1日から吉田こども園になりました。
- ・学童保育とふれあい学校の一体化に向け、一部の小学校で合同保育を試行的に実施しています。

#### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

##### ○ 一時保育実施保育所（園）数

（市内で一時保育を実施している保育所（園）の数）

H26実績 3か所 ⇒ R1実績 3か所 ⇒ (R2目標 4か所)

##### ○ 延長保育実施保育所（園）数

（市内で延長保育を実施している保育所（園）の数）

H26実績 8か所 ⇒ R1実績 11か所 ⇒ (R2目標 9か所)

### 施策の方向性

- ・引き続き、年度当初の待機児童ゼロの維持に努めます。
- ・保育所等の施設や運用体制の機能向上を目指した検討を進めます。
- ・一時保育実施保育所（園）数の増加に取り組みます。
- ・学童保育室とふれあい学校の一体化を順次進めます。

### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 一時保育実施保育所（園）数

（市内で一時保育を実施している保育所（園）の数）

令和元(2019)年度実績 3か所 ⇒ 令和7(2025)年度目標 4か所

##### ○ 学童保育とふれあい学校の一体化実施率

（学童保育室とふれあい教室の一体化を実施している小学校比率）

令和元(2019)年度実績 38% ⇒ 令和7(2025)年度目標 85%

## 2 学校教育の充実

### (1) 教育環境の充実

#### 施策の現況と課題

- ・児童・生徒は減少傾向にありますが、学校を円滑に運営するためには、計画的な施設の改修、維持管理が重要です。
- ・学校給食は、調理場の施設設備が老朽化していることから、計画的に設備の更新等の整備を推進し、安全で効率的な給食運営をしていくことが必要です。
- ・安心して学べる教育環境の維持、充実のためにも、教育委員会の円滑かつ適正な運営が求められています。

#### 前期基本計画の検証

- ・小・中学校の普通教室へのエアコン設置を計画通りに実施し、令和元（2019）年度に設置率100%を実現しました。
- ・給食調理業務の民間委託は目標どおり100%を達成しています。
- ・平成29（2017）年度に学校共同調理場再配置計画を策定しましたが、計画の一部を見直し、現在に至っています。

#### 前期基本計画における達成指標

##### ○ 普通教室へのエアコン設置率

（小中学校の普通教室へのエアコン設置率）※目標年度：R1年度

H26実績 20.7% ⇒ R1実績 100% ⇒ (R1目標 100%)

##### ○ 給食調理業務の民間委託率

（民間委託調理場数／全調理場数）

H26実績 67% ⇒ R1実績 100% ⇒ (R2目標 100%)

#### 施策の方向性

- ・令和元（2019）年度に策定した学校施設の長寿命化計画に基づき、学校施設の改修（体育館LED照明の整備等）、維持管理を計画的に実施していきます。
- ・再配置計画を見直しにより統合を見送った第一小学校・原谷小学校・第一中学校共同調理場等の設備更新を計画的に実施します。

#### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 共同調理場設備更新実施数

（共同調理場のうち設備更新を実施した累計か所数）

令和元(2019)年度実績 0か所 ⇒ 令和7(2025)年度目標 10か所

##### ○ 学校体育館LED照明整備率

（小中学校体育館のLED照明整備率）

令和元(2019)年度実績 0% ⇒ 令和7(2025)年度目標 71.4%

## (2) 教育内容の充実

### 施策の現況と課題

- ・児童・生徒の基礎学力の向上力に向け、家庭学習の習慣化、教員の指導技術向上など、多面的な取組が求められています。
- ・いじめの解消については、早期発見・早期対応が必要です。
- ・GIGA スクール構想の推進など、ICT 活用教育の充実が急務となっています。

### 前期基本計画の検証

- ・研修会、講座、専門領域ごとの推進委員会を数多く開催したほか、県教育局との連携による学校訪問や要請訪問の実施により、各学校の課題に即したテーマでの授業支援や学校経営等に関する指導・支援を実施しました。
- ・家庭学習の習慣化は、小学校は目標を達成し、中学校は目標達成までもう少しの段階まで来ています。
- ・いじめ解消については、解消基準の引き上げ（1 か月→3 か月）による影響もあり目標には達していませんが、早期発見及び早期対応に努めています。

#### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

##### ○ 家庭学習の習慣化の割合

（アンケート調査において「小学生毎日 30 分以上、中学生毎日 1 時間以上家庭学習していると回答した児童・生徒の割合）

[小学校] H26 実績 95.8% ⇒ R1 実績 96.7% ⇒ (R2 目標 95%)

[中学校] H26 実績 61.2% ⇒ R1 実績 67.4% ⇒ (R2 目標 80%)

##### ○ いじめの解消率

（いじめ認知件数に対するいじめ解消の割合）

H26 実績 89.0% ⇒ R1 実績 77% ⇒ (R2 目標 100.0%)

### 施策の方向性

- ・引き続き、家庭学習の習慣化に取り組めます。
- ・いじめの早期発見早期対応により、早期解消に努めます。
- ・英語教育の更なる充実に取り組めます。
- ・GIGA スクールの推進等、ICT 活用教育に積極的に取り組めます。

### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 家庭学習の習慣化の割合

（アンケート調査において「小学生毎日 30 分以上、中学生毎日 1 時間以上家庭学習していると回答した児童・生徒の割合）

[小学校] 令和元(2019)年度 実績 96.7% ⇒ 令和 7(2025)年度 目標 95%以上

[中学校] 令和元(2019)年度 実績 67.4% ⇒ 令和 7(2025)年度 目標 80%以上

##### ○ いじめの解消率

（いじめ認知件数に対するいじめ解消の割合）

令和元(2019)年度 実績 77% ⇒ 令和 7(2025)年度 目標 100%

### (3) 特色ある教育の実施

#### 施策の現況と課題

- ・いじめ・不登校対策事業の充実により様々な対策を講じていますが、不登校児童生徒数がやや増加傾向にあり、喫緊の課題となっています。
- ・教職員研修会等の開催により、教師一人ひとりの経験や専門性に応じた教師力の向上への取組を進めています。
- ・秩父の自然や文化に親しむ機会を確保し、秩父ならではの良さを活かした教育を通して、豊かな人間性や社会性の育成を図っています。

#### 前期基本計画の検証

- ・教育相談員による学校訪問や教育相談を実施しているほか、相談員やさわやか相談員への研修も実施しています。
- ・不登校対策においては、県教育委員会や関係諸機関と連携して事業を実施していますが、目標値には達していません。
- ・「伝統文化に親しむ日（7月20日及び12月3日）」を制定し（平成29（2017）年）、同日を小・中学校及び幼稚園の休業日としました。

#### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

##### ○ 不登校児童生徒数

（市内の不登校児童生徒数（年間30日以上欠席した児童・生徒数））

H26実績 34人 ⇒ R1実績 46人 ⇒ (R2目標 30人)

##### ○ 教職員研修会の参加者数

（教職員を対象とした研修会の年間延べ参加者数）

H26実績 346人 ⇒ R1実績 500人 ⇒ (R2目標 400人)

#### 施策の方向性

- ・引き続き、秩父の恵まれた環境を活用した学習活動を推進し、秩父への親しみや郷土愛を育みます。
- ・各種の教職員研修を実施し、資質・能力の向上を図ります。
- ・県教育委員会や関係諸機関と連携を図りながら、不登校児童生徒の解消を目指します。
- ・よりきめ細かな対応が可能な教育相談室体制の強化を図ります。

#### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 不登校児童生徒数

（市内の不登校児童生徒数（年間30日以上欠席した児童・生徒数））

令和元(2019)年度 実績 46人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 30人

##### ○ 教職員研修会の参加者数

（教職員を対象とした研修会の年間延べ参加者数）

令和元(2019)年度 実績 500人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 500人

## (4) 家庭・地域の教育力の向上

### 施策の現況と課題

- ・地域社会の結びつきが弱くなりつつある中、「地域の子ども達は地域で守り育てる」体制を整えるとともに、家庭教育の重要性を広く浸透させることも重要です。
- ・青少年の健全育成を進めるためには、多様な活動主体が連携して取り組むことが必要です。
- ・秩父地域の県立高校の維持、活性化が喫緊の課題となっています。

### 前期基本計画の検証

- ・多くの団体が加盟する秩父市青少年育成市民会議を中心に、あいさつ運動など諸活動の実施により、子どもたちの健全な育成を図りました。
- ・定住自立圏事業として、親の学習推進事業を継続しました。
- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発に努めましたが、朝食摂食率は目標に達していません。
- ・1市4町で連携し、秩父地域内県立高校の維持、活性化の取組に着手しています。

### 前期基本計画における達成指標

#### ○ 朝食を摂っている児童・生徒の割合

(アンケート調査において「朝食を毎日摂っている」と回答した児童・生徒の割合)

H26実績 88.6% ⇒ R1実績 88% ⇒ (R2目標 95%)

#### ○ 通学路上での事故等の発生件数

(登下校における交通事故・災害被害の発生件数(累計))

H26実績 0件 ⇒ R1実績 2件 ⇒ (R2目標 0件)

### 施策の方向性

- ・家庭・地域の教育力を向上させるべく、家庭教育の重要性、子どもと地域住民のふれあいの場提供等の事業を展開します。
- ・秩父市青少年育成市民会議は多くの団体が加盟しているため、引き続き横の連携を密にしながら情報交換を活発に進めます。
- ・PTA活動を推進し、学校と家庭、地域との連携を深めていきます。
- ・県立高校の魅力化を支援します。

### 後期基本計画における達成指標

#### ○ 朝食を摂っている児童・生徒の割合

(アンケート調査において「朝食を毎日摂っている」と回答した児童・生徒の割合)

令和元(2019)年度実績 88% ⇒ 令和7(2025)年度目標 95%

#### ○ 通学路上での事故等の発生件数

(登下校における交通事故・災害被害の年間発生件数)

令和元(2019)年度実績 2件 ⇒ 令和7(2025)年度目標 0件



### 3 生涯教育の充実

#### (1) 生涯学習の充実

##### 施策の現況と課題

- ・各公民館で実施されている講座・クラブによっては、利用者や講師の高齢化が課題となっており、幅広い世代に利用されるような魅力ある事業の企画が課題となっています。
- ・地区公民館の施設老朽化や人口減少により、公民館のあり方について長期的な視野に立ち検討する必要があります。
- ・秩父図書館は、施設の老朽化による不具合や利用しづらさが生じています。

##### 前期基本計画の検証

- ・学ぶ意欲が高い高齢者向けの講座・クラブの充実を図りながらも、今まで利用の少なかった若者を対象とした教室を企画・開催し、SNS等を活用しながら若い世代の利用促進に努めました。
- ・秩父図書館では、こども読書活動の推進に努めたほか、これまで課題となっていた乳幼児向けサービスの充実を図りました。

##### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

###### ○ 公民館・講座クラブ開催数

(市内の公民館等で開催する講座・クラブ数)

H26 実績 404 講座 ⇒ R1 実績 441 講座 ⇒ (R2 目標 420 講座)

###### ○ 秩父図書館の利用者数

(秩父図書館の年間延べ利用者数)

H26 実績 120,942 人 ⇒ R1 実績 113,710 人 ⇒ (R2 目標 121,000 人)

##### 施策の方向性

- ・社会教育委員、歴史文化伝承館運営委員会等の意見を聴きながら、市民ニーズをとらえた生涯学習の充実を進めます。
- ・地区公民館施設の、こまめな点検と修繕に努めます。
- ・図書館を安心・安全に利用できるよう、適切な施設管理や利用環境の改善を行うとともに、所蔵資料整備及び新規資料の充実を図ります。

##### 後期基本計画における達成指標

###### ○ 公民館利用者数

(市内公民館の年間延べ利用者数)

令和元(2019)年度 実績 250,319 人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 260,000 人

###### ○ 秩父図書館の利用者数

(秩父図書館の年間延べ利用者数)

令和元(2019)年度 実績 113,710 人 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 121,000 人

## (2) 歴史文化の保存・活用

### 施策の現況と課題

- ・地域の少子高齢化や社会生活の変化が著しい状況の中、文化財をはじめとする歴史・文化・自然における貴重な資料の所有者・管理者の逝去・交代等により、管理体制の喪失や文化財等の荒廃・滅失・散逸の危険性が高まっています。
- ・若い世代を対象とした民俗文化財の体験・後継者養成事業が各地で活発に行われていますが、いずれの民俗芸能団体も慢性的な後継者不足に陥っています。

### 前期基本計画の検証

- ・国庫補助を活用し、「椋神社の龍勢」や「塚越の花まつり」の詳細な調査を行い、その成果を映像や調査報告書として記録保存しました。
- ・若い後継者が出演する「秩父市民俗芸能大会」の開催や市内小・中学生を対象とした「秩父市子ども伝統芸能伝導師」の称号授与の実施など、民俗芸能の継承・普及に取り組んでいます。

#### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

##### ○ 市事業への民俗芸能出演団体数

(市及び市教育委員会開催事業に出演した民俗芸能保持団体数（累計）)

H26 実績 — ⇒ R1 実績 21 団体 ⇒ (R2 目標 15 団体)

##### ○ 普及講座等開催回数

(主催講座・教室、企画展、講師派遣等の回数（累計）)

H26 実績 — ⇒ R1 実績 11 回 ⇒ (R2 目標 5 回)

### 施策の方向性

- ・引き続き、文化財の所有・管理状況の把握、民俗文化財の後継者育成の推進など、その保存継承に努めます。
- ・市内に残る歴史・文化・自然の価値ある資料に対して調査を行い、必要な措置等を講じます。
- ・説明板・標柱、案内道の整備など、文化財の公開環境の整備を進めます。
- ・歴史・文化・自然に対する「学びの場」の提供を推進します。また、市内に点在する各資料館について、環境整備やより良い在り方などを検討します。
- ・魅力ある文化財情報の発信に努めます。

### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 市事業への民俗芸能出演団体数

(市及び市教育委員会開催事業に出演した民俗芸能保持団体数（累計）)

令和元(2019)年度 実績 21 団体 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 40 団体

##### ○ 普及講座等開催回数

(主催講座・教室、企画展、講師派遣等の回数（累計）)

令和元(2019)年度 実績 11 回 ⇒ 令和7(2025)年度 目標 20 回

### (3) 芸術文化・スポーツの振興

#### 施策の現況と課題

- ・市内における芸術文化に関する情報を「ちちぶ芸術祭」として一元的に集約し広報してきましたが、年度によって参加イベント数にバラつきがある状態です。
- ・秩父宮記念市民会館については、年々自主事業計画も充実し、市民が芸術文化に触れる機会は増えてきています。
- ・スポーツ施設の利用者数が、平成 29 (2017) 年度をピークに減少しています。多くの社会体育施設の老朽化が進んでいることから、中長期的な計画に基づいた保全・長寿命化が必要です。

#### 前期基本計画の検証

- ・秩父宮記念市民会館は、自主事業計画の充実により、目標を達成できています。
- ・ペタンク競技の全国大会「第 34 回日本ペタンク選手権大会」を市内で開催しました。埼玉県代表として出場した秩父市の男性・女性チームがともに優勝し、名実ともに「ペタンク日本一のまち」になることができました。

#### 前期基本計画における達成指標（抜粋）

##### ○ 秩父宮記念市民会館自主事業数

(秩父宮記念市民会館自主事業として開催する年間イベント数)

H26 実績 一件 ⇒ R1 実績 12 件 ⇒ (R2 目標 10 件)

##### ○ スポーツ施設利用者数

(市内のスポーツ施設利用者の合計の年間延べ人数)

H26 実績 480,035 人 ⇒ R1 実績 446,515 人 ⇒ (R2 目標 500,000 人)

#### 施策の方向性

- ・芸術文化創造事業に関して、SNS などを活用し効果的に情報を発信して、市民が芸術文化に触れる機会を作っていきます。
- ・秩父宮記念市民会館の事業について、アンケート等をもとに、よりニーズに合った事業を実施するとともに、様々なジャンルの事業を行い、市民がより上質な芸術文化に触れる機会を提供していきます。
- ・市民のスポーツ人口拡大のため、スポーツ推進委員とともに、引き続きスポーツ団体への支援を行い、市民のライフステージに応じたスポーツ活動の内容充実を図ります。

#### 後期基本計画における達成指標

##### ○ 秩父宮記念市民会館自主事業入場者率

(自主事業のうち鑑賞事業として開催するイベントの収容人数に対する入場者の割合)

令和元(2019)年度 実績 73.4% ⇒ 令和 7(2025)年度 目標 90%

##### ○ スポーツ施設利用者数

(市内のスポーツ施設利用者の合計の年間延べ人数)

令和元(2019)年度 実績 446,515 人 ⇒ 令和 7(2025)年度 目標 500,000 人